

2027年3月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2026年8月14日

上場会社名 RIZAPグループ株式会社 上場取引所 札
 コード番号 2928 URL <https://www.rizapgroup.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 瀬戸 健
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理本部長 (氏名) 舩野 大輔 TEL 03-5337-1337
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績 (2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	36,910	△7.5	790	93.4	259	—	380	—	135	—	330	—
2026年3月期第1四半期	39,915	△1.3	408	—	△166	—	△4,212	—	△5,945	—	△4,304	—

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	0.23	0.23
2026年3月期第1四半期	△9.97	△9.97

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	162,891	63,715	50,163	30.8
2026年3月期	163,480	64,559	50,488	30.9

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.67	0.67
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期 (予想)	—	—	—	1.34 ～2.01	1.34 ～2.01

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想 (2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	180,000	7.6	12,000 ～ 16,000	8.2 ～ 44.3	9,000 ～ 13,000	10.7 ～ 59.9	5,500 ～ 8,200	△4.0 ～ 43.1	4,000 ～ 6,000	177.7 ～ 316.6	6.70 ～ 10.06

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※詳細については「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 -社 (社名)-、除外 -社 (社名)-

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① I F R Sにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	596,664,367株	2026年3月期	596,664,367株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	421,477株	2026年3月期	1,477株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	596,543,928株	2026年3月期1Q	596,663,135株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的に判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（決算補足資料の入手方法）

2026年8月14日（金）に、「2027年3月期 第1四半期 決算補足資料」を当社ホームページ（<https://www.rizapgroup.com/>）に掲載する予定です。なお、機関投資家・アナリスト・報道機関向け説明会は開催いたしません。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

a. 連結経営成績に関する説明

当第1四半期におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要、AI関連需要等により下支えされ、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、中東・ウクライナ情勢等の地政学的リスクに伴う原油・原材料価格の高止まりや為替・金融市場の変動に加え、物価上昇が下押し要因となっており、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経営環境下、当社グループは当期の経営方針として、選択と集中の徹底や成長分野への機動的な投資、AI活用等による生産性向上を推進するとともに、不透明な外部環境を踏まえた機動的な出店戦略等により、増収及びさらなる利益成長を確実なものとする方針を掲げております。主力事業である「コンビニズム」chocoZAPにおきましては、前期に確立した収益基盤を土台に、約150億円規模の積極的な成長投資（chocoZAP第二章）を推進しております。

売上面におきましては、chocoZAP事業において出店数が前期比2.6倍に拡大したほか、広告宣伝費を抑制しつつも効果的なキャンペーン等の実施により、会員数は堅調に推移いたしました。一方で、キャンペーンに伴う無料期間の影響等により売上収益化までにリードタイムが発生したことや、グループ全体として事業ポートフォリオの「選択と集中」を推進した影響等により、前年同期比で減収となりました。しかしながら、この減収は期初の計画通りの水準であり、利益重視の筋肉質な事業構造への転換が着実に進んでおります。

利益面におきましては、当社グループは下期偏重型の事業構造ではあるものの、chocoZAP等の成長事業への積極的な先行投資を実施しつつ、前年同期比で2倍に迫る大幅な増益を達成いたしました。これは、連結子会社であるREXT Holdings株式会社において、成長分野であるエンターテインメント事業及びリユース事業の売上が大きく伸長したことや、収益基盤の確立がさらに進展した主要子会社を中心に大幅な増益となり、chocoZAPを中心とした成長投資を吸収して全体の利益を牽引したことに加え、グループ各社において経費の最適化や徹底したコスト削減を実施したことが奏功したことによるものです。

以上の結果、当第1四半期の売上収益は36,910百万円（前年同期は39,915百万円、前年同期比7.5%減）、営業利益は790百万円（前年同期は408百万円）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は135百万円（前年同期は5,945百万円の損失）と5期ぶりに最終利益が黒字となりました。

b. セグメント別事業概況に関する説明

（ヘルスケア・美容）

RIZAP株式会社が展開する「コンビニズム」chocoZAPにおきましては、店舗網の拡大が進み7月17日には2,000店舗を突破いたしました。会員数につきましても、8月13日時点で116.7万人となり、堅調に推移しております。当期は、約150億円規模の成長投資を通じた積極的な事業拡大を推進しております。運営面では、顧客満足度のさらなる向上を図るため、アプリ内の「お店の状況わかるナビ」を刷新いたしました。従来の清掃状況やマシン故障率の指標といった固定的な指標に代わり、店舗にまつわる様々な状態（異常、故障、感想、評価等）を5点満点の点数（「店舗体験スコア」）とお客様の生の声（フリーコメント）で収集することで、より立体的な店舗の状況把握を可能とし、店舗全体の継続的な改善につなげる体制を構築しております。また、AX（AIトランスフォーメーション）への開発投資も推進しており、8月中旬よりAIトレーナーのPoC（概念実証）の開始を予定しています。フランチャイズ（FC）展開においても順調に店舗数を拡大しているほか、海外展開におきましては、6月にマレーシアへ初出店を果たし、グローバル展開を加速させております。これらの結果、当第1四半期におきましては、chocoZAPへの成長投資（主に国内外の出店及び広告投資）を積極的に実施したことで会員数は増加したものの、キャンペーン施策の影響や売上収益化までにリードタイムが発生したこと等により、前年同期比で減収減益となりました。

MRKホールディングス株式会社は、主力の婦人下着及びその関連事業において、前年に実施した基幹商品の価格改定に伴う駆け込み需要の反動や、前期からの店舗網再構築の影響を受け、一時的な減収となりました。一方、利益面においては、本年度は収益性向上を方針とし、販売戦略の見直しによる売上総利益率の改善、店舗網再構築による固定費圧縮、並びに広告宣伝費をはじめとした全社的な経費の最適化を推進した結果、営業損失は前年同期から大幅に縮小いたしました。

以上の結果、ヘルスケア・美容セグメントの売上収益は15,310百万円（前年同期は16,312百万円、前年同期比6.1%減）、営業利益は457百万円（前年同期は764百万円、前年同期比40.1%減）となりました。

(ライフスタイル)

REXT Holdings株式会社は、エンターテインメント事業において、新規出店の寄与もあり中核商材のトレーディングカードが前期を大きく上回ったことに加え、アミューズメント（クレーンゲーム等）を含む高収益カテゴリの強化が奏功し大幅な増収増益となりました。リユース事業においては、ブランド・宝飾を中心とした買取の好調や、接客技術の標準化に向けた研修強化により過去最高益を更新いたしました。アパレル事業及び雑貨事業においては、不採算店舗の整理や徹底したコスト削減等により収益構造の改善を推進し、雑貨事業では黒字化を達成いたしました。これらの結果、前期比で増収増益となりました。

BRUNO株式会社は、売上規模の追求からブランド力の強化及び収益性を重視する経営体質への転換を推し進めました。売上面におきましては、国内卸販売において高粗利商品への集中や販路の最適化を戦略的に進めたことに加え、中国市場における販売代理店との取引形態の一部を高収益なライセンス取引へ変更した影響等により、前年同期を下回る結果となりました。一方で、商品面では「BRUNOカタログギフト」がギフト需要を的確に捉え順調に推移したほか、エアフライヤー等の新規キッチン家電も好調に推移いたしました。利益面におきましては、商品数（SKU数）の削減による在庫管理の強化や、生成AI活用等による徹底した全社的なコスト削減を推進いたしました。一過性の在庫評価損を計上した影響により、前年同期比で減益となりました。

夢展望株式会社は、売上規模の追求から収益性を重視した経営への転換を推し進めました。アパレル事業においては、国内での滞留在庫の圧縮等により収益構造の改善が進んだほか、中国市場においてSNSやライブコマース、実店舗を連動させた販売施策や店舗網の拡充が奏功し、中国事業の売上及び利益が拡大いたしました。ジュエリー事業においては、販売価格の見直しや接客品質の向上に取り組んだことにより客単価が上昇したものの、客数の減少等により減収となりました。これらの結果、連結売上収益は前年同期を下回ったものの、これまで各事業において進めてきた徹底したコスト削減施策の効果が顕在化し、営業損失は前年同期から縮小いたしました。

以上の結果、ライフスタイルセグメントの売上収益は16,448百万円（前年同期は17,904百万円、前年同期比8.1%減）、営業利益は539百万円（前年同期は198百万円、前年同期比172.2%増）となりました。

(インベストメント)

SDエンターテインメント株式会社は、ウェルネス事業を中心に収益力の向上と事業基盤の拡充に取り組みました。保育・介護部門において、前年に開所した就労継続支援B型事業所の売上寄与に加え、当第1四半期においても計7施設を新たに開所し事業所網の拡充を進めたほか、保育事業における保育内容の充実と園の魅力向上に努め売上が伸びました。これらの積極的な成長戦略と収益改善施策が奏功し、前年同期比で増収となり、営業損失は大幅に縮小いたしました。

一新時計株式会社におきましては、販売網及び顧客基盤の強化を背景に、高級ブランド時計の販売が引き続き好調に推移し、増収増益となりました。

以上の結果、インベストメントセグメントの売上収益は5,458百万円（前年同期は5,852百万円、前年同期比6.7%減）、営業利益は291百万円（前年同期は87百万円、前年同期比234.4%増）となりました。なお、前年同期において当セグメントに含まれている株式会社湘南ベルマーレの業績につきましては、前期2026年2月20日の全保有株式の譲渡に伴い連結子会社から除外されたため、当第1四半期においては含まれておりません。

なお、セグメント間の内部売上収益△307百万円、親会社である当社の管理部門費用など、各セグメントに配賦不能なセグメント利益の調整△497百万円があるため、グループ全体としての売上収益は36,910百万円、営業利益は790百万円となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

a. 資産、負債及び資本の状況

(資産)

流動資産は、前期末に比べて1,602百万円、2.2%減少し、72,312百万円となりました。これは主として、棚卸資産が3,015百万円増加した一方で、営業債権及びその他の債権が2,829百万円、現金及び現金同等物が1,562百万円、それぞれ減少したことによるものです。

非流動資産は、前期末に比べて1,013百万円、1.1%増加し、90,579百万円となりました。これは主として、使用権資産が2,157百万円増加した一方で、有形固定資産が1,795百万円減少したことによるものです。

この結果、資産合計は、前期末に比べて588百万円、0.4%減少し、162,891百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前期末に比べて814百万円、1.3%減少し、59,625百万円となりました。これは主として、有利子負債が1,847百万円増加した一方で、営業債務及びその他の債務が1,857百万円、その他の流動負債が644百万円、そ

れぞれ減少したことによるものです。

非流動負債は、前期末に比べて1,069百万円、2.8%増加し、39,550百万円となりました。これは主として、chocoZAPを中心とした出店投資に伴い長期リース負債が1,155百万円増加した一方で、長期借入金が148百万円減少した結果、有利子負債が997百万円増加したことによるものです。

この結果、負債合計は、前期末に比べて255百万円、0.3%増加し、99,176百万円となりました。

(資本)

資本合計は、前期末に比べて843百万円、1.3%減少し、63,715百万円となりました。これは主として、剰余金の配当等により利益剰余金が528百万円減少したことによるものです。

b. キャッシュ・フローの状況

当第1四半期における現金及び現金同等物（以下「資金」）の残高は前期末に比べ1,562百万円減少し、27,505百万円となりました。

各キャッシュ・フローの増減状況とそれらの主要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期における営業活動による資金の増加は5,363百万円（前年同期は6,889百万円の増加）となりました。主な要因は、減価償却費及び償却費が5,804百万円、営業債権及びその他の債権の増減による収入が2,688百万円となった一方、営業債務及びその他の債務の増減による支出が1,792百万円、棚卸資産の増減による支出が797百万円となったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期における投資活動による資金の減少は2,380百万円（前年同期は1,123百万円の減少）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が1,890百万円、敷金及び保証金の差入れによる支出が298百万円となったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期における財務活動による資金の減少は4,581百万円（前年同期は6,769百万円の減少）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入が1,500百万円となった一方、リース負債の返済による支出が4,141百万円、長期借入金の返済による支出が1,604百万円となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当期の連結業績予想は、2026年5月14日に開示した数値から、現時点において変更はありません。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	29,067	27,505
営業債権及びその他の債権	20,978	18,148
棚卸資産	20,075	23,090
未収法人所得税	86	75
その他の金融資産	223	200
その他の流動資産	3,482	3,291
流動資産合計	73,914	72,312
非流動資産		
有形固定資産	33,854	32,058
使用権資産	35,439	37,597
のれん	1,867	1,867
無形資産	3,438	3,618
その他の金融資産	10,269	10,463
繰延税金資産	4,082	4,448
その他の非流動資産	613	526
非流動資産合計	89,565	90,579
資産合計	163,480	162,891

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	21,463	19,606
有利子負債	31,406	33,254
未払法人所得税	387	205
引当金	1,952	1,973
その他の金融負債	16	18
その他の流動負債	5,212	4,568
流動負債合計	60,439	59,625
非流動負債		
有利子負債	32,268	33,266
退職給付に係る負債	353	350
引当金	4,961	4,994
その他の金融負債	580	603
繰延税金負債	184	214
その他の非流動負債	132	121
非流動負債合計	38,481	39,550
負債合計	98,921	99,176
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	35,957	36,172
その他の資本性金融商品	10,000	10,000
利益剰余金	4,462	3,933
その他の資本の構成要素	△31	△43
親会社の所有者に帰属する持分合計	50,488	50,163
非支配持分	14,070	13,552
資本合計	64,559	63,715
負債及び資本合計	163,480	162,891

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
継続事業		
売上収益	39,915	36,910
売上原価	21,091	20,021
売上総利益	18,823	16,888
販売費及び一般管理費	18,671	16,357
その他の収益	380	439
その他の費用	123	179
営業利益	408	790
金融収益	40	100
金融費用	616	631
税引前四半期利益又は損失 (△)	△166	259
法人所得税費用	3,964	△125
継続事業からの四半期利益又は損失 (△)	△4,131	384
非継続事業		
非継続事業からの四半期損失 (△)	△81	△3
四半期利益又は損失 (△)	△4,212	380
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	△5,945	135
非支配持分	1,733	245
四半期利益又は損失 (△)	△4,212	380
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)		
継続事業	△9.88	0.23
非継続事業	△0.09	△0.01
基本的1株当たり四半期利益又は損失 (△) (円)	△9.97	0.23
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)		
継続事業	△9.88	0.23
非継続事業	△0.09	△0.01
希薄化後1株当たり四半期利益又は損失 (△) (円)	△9.97	0.23

要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期利益又は損失(△)	△4,212	380
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する資本 性金融商品	△17	△47
確定給付制度の再測定	2	3
項目合計	△14	△43
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△76	△6
項目合計	△76	△6
その他の包括利益合計	△91	△50
四半期包括利益	△4,304	330
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	△6,022	95
非支配持分	1,718	235
四半期包括利益	△4,304	330

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	その他の 資本性 金融商品	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			
2025年4月1日残高	25,303	29,371	10,000	△13,564	423	51,534	10,888	62,422
四半期損失(△)	—	—	—	△5,945	—	△5,945	1,733	△4,212
その他の包括利益	—	—	—	—	△76	△76	△14	△91
四半期包括利益合計	—	—	—	△5,945	△76	△6,022	1,718	△4,304
剰余金の配当	—	—	—	—	—	—	△45	△45
支配の喪失とならない 子会社に対する所有者 持分の変動	—	50	—	—	—	50	△36	14
その他の資本性金融商品 の所有者に対する分配金	—	—	—	△153	—	△153	—	△153
その他	—	—	—	1	—	1	—	1
所有者との取引額等合計	—	50	—	△151	—	△101	△81	△182
2025年6月30日残高	25,303	29,422	10,000	△19,662	346	45,410	12,525	57,936

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

(単位: 百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					合計	非支配 持分	資本 合計
	資本金	資本 剰余金	その他の 資本性 金融商品	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素			
2026年4月1日残高	100	35,957	10,000	4,462	△31	50,488	14,070	64,559
四半期利益	—	—	—	135	—	135	245	380
その他の包括利益	—	—	—	—	△39	△39	△10	△50
四半期包括利益合計	—	—	—	135	△39	95	235	330
剰余金の配当	—	—	—	△399	—	△399	△41	△441
自己株式の取得	—	—	—	—	△83	△83	—	△83
支配の喪失とならない 子会社に対する所有者 持分の変動	—	216	—	—	—	216	△711	△494
その他の包括利益累計額か ら利益剰余金への振替	—	—	—	△111	111	—	—	—
その他の資本性金融商品 の所有者に対する分配金	—	—	—	△153	—	△153	—	△153
その他	—	△1	—	—	—	△1	—	△1
所有者との取引額等合計	—	214	—	△664	27	△421	△753	△1,174
2026年6月30日残高	100	36,172	10,000	3,933	△43	50,163	13,552	63,715

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益又は損失(△)	△166	259
非継続事業からの税引前四半期損失(△)	△81	△3
減価償却費及び償却費	5,525	5,804
減損損失	11	6
金融収益及び金融費用	563	552
棚卸資産の増減	112	△797
営業債権及びその他の債権の増減	2,743	2,688
営業債務及びその他の債務の増減	△261	△1,792
退職給付に係る負債の増減	△16	4
引当金の増減	2	17
その他	△481	△527
小計	7,950	6,212
利息及び配当金の受取額	13	13
利息の支払額	△415	△443
法人所得税の支払額	△662	△418
法人所得税の還付額	3	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,889	5,363
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△5	△3
定期預金の払戻による収入	10	—
有形固定資産の取得による支出	△787	△1,890
有形固定資産の売却による収入	70	42
投資有価証券の売却による収入	—	137
敷金及び保証金の差入れによる支出	△101	△298
敷金及び保証金の回収による収入	48	39
その他	△359	△408
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,123	△2,380
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額	△212	724
長期借入れによる収入	131	1,500
長期借入金の返済による支出	△2,507	△1,604
社債の償還による支出	△14	△10
リース負債の返済による支出	△3,997	△4,141
非支配持分からの払込による収入	—	0
親会社の所有者への配当金の支払額	—	△381
非支配持分への配当金の支払額	△42	△39
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△10
自己株式の取得による支出	—	△83
非支配持分からの子会社持分取得による支出	△101	△485
その他	△24	△50
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,769	△4,581
現金及び現金同等物に係る換算差額	△33	35
現金及び現金同等物の増減額	△1,037	△1,562
現金及び現金同等物の期首残高	20,058	29,067
売却目的で保有する資産に含まれる現金及び現金同等物の振戻額	476	—
売却目的で保有する資産に含まれる現金及び現金同等物の振替額	△357	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	19,140	27,505

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている報告セグメントを基礎に決定しております。各セグメントの事業内容は以下のとおりであります。

- ・「ヘルスケア・美容」セグメント：コンビニズム「chocoZAP」、パーソナルトレーニングジム「RIZAP」を始めとするRIZAP関連事業の運営、体型補整用下着、美容関連用品・化粧品・健康食品の販売等
- ・「ライフスタイル」セグメント：エンターテインメント商品等の小売及びリユース事業の店舗運営、インテリア雑貨、アパレル及びアパレル雑貨の企画・開発・製造及び販売等
- ・「インベストメント」セグメント：グループ会社間でのシナジーを支える機能会社群として安定的な収益創出を目指す事業

(2) 報告セグメントの収益及び業績に関する情報

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値です。セグメント間の取引は市場実勢価格に基づいております。

報告セグメントの収益及び業績に関する情報は、次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

(単位：百万円)

	ヘルスケア・ 美容	ライフ スタイル	インベス トメント	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	16,277	17,849	5,788	39,915	—	39,915
セグメント間の売上収益	35	55	63	154	△154	—
合計	16,312	17,904	5,852	40,070	△154	39,915
セグメント利益	764	198	87	1,051	△642	408
金融収益	—	—	—	—	—	40
金融費用	—	—	—	—	—	616
税引前四半期損失（△）	—	—	—	—	—	△166

(注) セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものです。

当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

(単位：百万円)

	ヘルスケア・ 美容	ライフ スタイル	インベス トメント	合計	調整額	要約四半期 連結財務諸表 計上額
売上収益						
外部顧客からの売上収益	15,268	16,343	5,298	36,910	—	36,910
セグメント間の売上収益	41	105	160	307	△307	—
合計	15,310	16,448	5,458	37,217	△307	36,910
セグメント利益	457	539	291	1,288	△497	790
金融収益	—	—	—	—	—	100
金融費用	—	—	—	—	—	631
税引前四半期利益	—	—	—	—	—	259

(注) セグメント間の売上収益及びセグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去又は各報告セグメントに配分していない全社費用によるものです。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(後発事象)

該当事項はありません。